

アニュアルレポート 2008

地理環境科学専攻／地理環境コース

首都大学東京
大学院都市環境科学研究科地理環境科学専攻
都市環境学部地理環境コース

目 次

1	地形・地質学研究室	1
	1) スタッフ	
	2) 研究概要	
	3) 研究成果(2008年度)	
2	気候学研究室	8
	1) スタッフ	
	2) 研究概要	
	3) 研究成果(2008年度)	
3	環境地理学研究室	18
	1) スタッフ	
	2) 研究概要	
	3) 研究成果(2008年度)	
4	地理情報学研究室	22
	1) スタッフ	
	2) 研究概要	
	3) 研究成果(2008年度)	
5	都市・人文地理学研究室	29
	1) スタッフ	
	2) 研究概要	
	3) 研究成果(2008年度)	
6	特定学術研究	33
7	学位論文	35

1 地形・地質学研究室

1) スタッフ

山崎 晴雄 (やまざき はるお) 教授 / 理学博士
地形学, 第四紀学, 地震地質学

鈴木 毅彦 (すずき たけひこ) 准教授 / 博士 (理学)
地形学, 第四紀学, 火山学

2) 研究概要

地形・地質学研究室は、固体地球の表面（地表）と地殻における地球科学的な諸現象を研究対象としている。とくに現在および最近の地質時代（第四紀）の地形と地質の性格を理解し、その将来像を展望することを目標としている。このために過去から現在までの、以下に例を挙げる諸現象の強度と頻度や環境の変化、それに現在どのような作用が働いているか、などに焦点をあて、研究している。最近行なっている主な研究テーマを挙げると次のとおりであり、日本をはじめ世界各地での野外観察・観測、あるいは室内での実験によって次のようなバラエティにとむ研究を行なっている。

1. 日本島とその周辺海域に広く堆積している火山灰に注目し、それを噴出した火山の認定、噴火の性質、時代、分布などを明らかにする。
2. 火山灰を広域的な時間指標層として、最近の百万年間、十万年間、一万年間、千年間の環境の変遷史（地形変化、気候・植生変化、海面変動、地殻変動など）を編む。
3. 日本や諸外国の沿岸地域の地形・地質学的資料をもとに第四紀海面変動と地盤運動に関するモデリングを行ない、より普遍的な海面変動史を明らかにする。
4. プレート境界域の第四紀地殻変動に注目し、その時間的変遷や地震発生様式からプレートの収斂・衝突過程の詳細を明らかにする。
5. 山崩れや洪水などの外作用による地形変化および火山活動・断層運動などの内作用による地形変化の研究を災害研究とも関連させて行なう。地形計測および土砂移動観測によって、山地および斜面の発達過程を明らかにする。

3) 研究成果 (2008 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

鈴木毅彦・村田昌則 2008. 東北南部会津地域を給源とする前期更新世に噴出した隈戸火砕流とそれに伴う降下テフラ. 第四紀研究 **47**: 339-348.

- 鈴木毅彦・村田昌則・大石雅之・山崎晴雄・中山俊雄・川島眞一・川合将文 2008. テフラ編年による立川断層活動史の復元. 第四紀研究 **47**: 103-119.
- 植木岳雪・近藤玲介 2008. 利尻火山, 杓形溶岩流の噴出年代: 溶岩直下の腐植質シルト層に含まれる炭化木片の AMS ^{14}C 年代に基づいて. 第四紀研究 **47**: 349-353.
- 植木岳雪・青木秀則・近藤玲介・鈴木毅彦 2008. 地層のはぎ取り標本の作製方法および授業での活用. 地学教育 **61**: 187-195.
- 植木岳雪 2008. 長野県北部, 糸魚川-静岡構造線の鮮新世以降の活動様式—大峰-SK110 テフラの古地磁気方位に基づいて. 東京大学地震研究所彙報 **83**: 163-173.
- 松浦旅人・植木岳雪 2008. 十和田平安噴火で生じた火砕流の定置温度および冷却過程. 地学雑誌 **117**: 889-893.
- 白井正明・塚本すみ子・近藤玲介 2008. OSL 強度より推定する現世河川堆積物中の長石粒子の露光状況と運搬-堆積過程. 第四紀研究 **47**: 377-389.
- 田村糸子 2008. 高等学校における地学教育の現状と問題点. 地質学雑誌 **114**: 157-162.

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

- 鈴木毅彦 2008. 多摩地域の上総層群. 日本地質学会編『日本地方地質誌 3 関東地方』朝倉書店, 292-299.
- 鈴木毅彦 2008. 鬼怒川・那珂川中-上流域段丘. 日本地質学会編『日本地方地質誌 3 関東地方』朝倉書店, 347-352.
- 鈴木毅彦 2008. 秩父盆地. 日本地質学会編『日本地方地質誌 3 関東地方』朝倉書店, 365-367.
- 鈴木毅彦 2008. 火砕流, 火山泥流, 火山活動, 完新世, 関東ローム, 間氷期, 最終氷期, 年代測定(用語解説). 日本科学者会議編『環境事典』旬報社, 1200p.
- 鈴木毅彦 2008. 目黒の地形とみどり. 進士五十八・山崎憲治編『めぐろシティカレッジ叢書 10 目黒・みどりへの誘い—地域をつくり地域を育む』二宮書店, 36-45.
- 鈴木毅彦 2009. III. 研究委員会報告, 2. International Focus Group on Tephrochronology and Volcanology (INTAV)(旧 Sub-Commission on Tephrochronology and Volcanism (SCOTAV))(テフロクロノロジー・火山研究委員会). 斎藤文紀・奥村晃史・熊井久雄編「国際第四紀学連合第 17 回大会(International Union for Quaternary Research, XVII International Congress, July 28 to August 3, 2007, Cairns Convention Center, Queensland, Australia)報告」第四紀研究 **48**: 25.
- 白石建雄・白井正明・西川 治・鈴木隼人・古橋恭子・星 多恵子 2008. 男鹿半島—能代地域の地形と第四系. 地質学雑誌 **114**(補遺): 33-50.
- 田村糸子 2008. 高等学校・理科教育における「地球」概念の形成につながる教材開発. 理科の教育 **58**: 822-824.
- 田村糸子 2008. 文科省サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(講 A 学-81219)「古生物から学ぶ地球環境の変遷」実践報告. 平成 20 年度 東京都立若葉総合高等学校研究

紀要 4: 58-61.

Kaji, T., Nemoto, K., Yamazaki, H., Shono, S., and Matsuda, T. 2008. Geological structure of the continental shelf in the northern part of Suruga Bay. 東海大学紀要海洋学部「海—自然と文化」 6: 1-14.

報告書

山崎晴雄・鈴木毅彦・田村糸子・大石雅之・下釜耕太 2009. 平成20年度原子力安全基盤調査研究「原子力施設に係る火山噴出物等の分析処方高度化研究」報告書, 首都大学東京, 107p.

白井正明 2009. 陸源物質, 特に有機物の深海底への供給過程に対する近年の人類活動の影響. 海洋研究船による地球温暖化に係わる温室効果気体の海洋における収支の観測研究 16: 75-84.

書評

鈴木毅彦 2008. 書評: 井上公夫・向山 栄著: 建設技術者のための地形図判読演習帳 初・中級編 2007年, 井上公夫著: 建設技術者のための土砂災害の地形判読実例問題 中・上級. 第四紀研究 47: 433-435.

鈴木毅彦 2008. 書評: 植木岳雪・酒井 彰: 青梅地域の地質 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅). 地学雑誌 116: 215.

植木岳雪 2008. 明治大学校地内遺跡調査団編: 野川流域の旧石器時代. 第四紀研究 47: 139.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

植木岳雪 2008. 5万分の1地質図幅「青梅」の刊行—東京近郊の丘陵の地質と立川断層, 産総研 Today 8 (7): 20.

講演・学会発表

Yamazaki, H. 2008. Migration of fault activity in the southwestern Kanto Plain, central Japan. *Abstracts of 33rd IGC Oslo 2008: STP03410L, August, Oslo, Norway.*

山崎晴雄 2008. 最近の地震と活断層に関する諸問題. 日本原子力学会秋季大会, バックエンド企画セッション, 9月, 高知.

山崎晴雄 2008. 活断層と地震防災. 平成20年新宿区防災・防犯リーダー実践塾講演, 12月, 新宿.

山崎晴雄 2008. あきる野市の地盤と地震災害. あきる野市防災講演会, 9月, あきる野.

山崎晴雄 2009. 日野市の地形・地質と自然災害, 日野市防災講演会, 2月, 日野.

鈴木毅彦・小荒井 衛・中山大地 2008. GISによるテフラデータベースのハザードマップへの活用. 日本地球惑星科学連合2008年大会予稿集: X156-P004(CD-ROM), 5月, 幕張.

- 鈴木毅彦 2008. 大島—その火山と地層. 首都大学東京 公開フォーラム 東京に学ぶ魅力—島と海と山—自然と歴史と文化と教育開発プロジェクト成果報告会, 6月, 東京.
- 鈴木毅彦 2008. 過去 50 万年間に噴出した指標テフラの対比と高精度年代決定. 日本第四紀学会 古気候変動研究委員会・地球温暖化問題研究委員会研究集会「近未来の環境変動予測を確実にするための古気候・環境情報の統合と展開」, 7月, 東京.
- 鈴木毅彦 2008. 火山灰について. 高原山原産地遺跡調査成果発表会, 10月, 矢板.
- 鈴木毅彦 2008. 日本の山の謎をたずねる「変貌する山々」. 杉の樹大学専科, NPO 法人杉の樹カレッジ, 10月, 杉並.
- 鈴木毅彦 2008. 「多摩・むさしの」学「多摩・むさしのの大地の成り立ち」と「立川断層」. 朝日カルチャーセンター立川特別講座, 11月, 立川.
- 鈴木毅彦 2009. 読図方法「地形図の読み方と地形や地質の基礎」. 東京都環境局緑のボランティア指導者等育成講座(専門講習), 1月, 新宿.
- 鈴木毅彦 2009. 八王子市第5期環境学習リーダー養成講座 八王子の自然観察・地質巡検. 八王子市環境学習・リサイクル推進協議会, 2月, 八王子.
- 鈴木毅彦 2009. 「多摩・むさしの」学「多摩川の自然史とむさしの」. 朝日カルチャーセンター立川特別講座, 2月, 立川.
- 鈴木毅彦 2009. 「地形の成立」と「地盤の強弱」 「江戸・とうきょう」学. 工学院大学・朝日カレッジ, 東京.
- 鈴木毅彦・植木岳雪・青木秀則・青野道夫・水戸一高 2007年 SPP 受講生 2009. 茨城県水戸地域における MIS5/6 境界に降下した箱根 TAu11 テフラ. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 154, 3月, 八王子.
- 山田真誉・鈴木毅彦 2008. 東北日本弧南部, 奥会津・奥鬼怒地域における海洋酸素同位体ステージ 6 河成段丘を用いた隆起量推定. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集, Q139-011(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 石川 智・鈴木毅彦・中山俊雄 2008. 珪藻分析による奥東京湾海進・海退過程の復元. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: Q139-P009(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 石川 智・鈴木毅彦・中山俊雄・鹿島 薫 2008. 珪藻分析による奥東京湾海進・海退過程の復元. 日本地質学会関東支部第2回研究発表会「関東地方の地質」, 6月, 東京.
- Koarai, M., Suzuki, T., Nakayama, D., and Ooi, S. 2008. Development of tephra GIS and its application for hazard mapping. The 31st International Geographical Congress, August, Tunis, Tunisia.
- 山田真誉・鈴木毅彦 2008. 鬼怒川上流域における地形発達史と河成地形面に基づく第四紀後期の隆起量推定. 日本第四紀学会 2008 年大会講演要旨集 **38**: 32-33, 8月, 東京.
- 小荒井 衛・鈴木毅彦・中山大地・大井信三・佐藤 浩 2008. テフラ GIS の構築とハザードマップへの利活用. 日本第四紀学会 2008 年大会講演要旨集 **38**: 116-117, 8月, 東京.
- 上條孝徳・鈴木毅彦 2008. 河成段丘を用いて推定した内陸部の隆起量および広域的地殻変

- 動—新潟県，五十嵐川と刈谷田川の河成段丘．日本地理学会 2008 年度秋季学術大会発表要旨集 **74**: 131, 10 月，盛岡．
- 小荒井 衛・鈴木毅彦・中山大地 2008. テフラ GIS を活用した東北地方の火山ハザードマップ．日本火山学会 2008 年度秋季大会，10 月，盛岡．
- 小荒井 衛・鈴木毅彦・中山大地・大井信三・中埜貴元 2008. テフラ GIS 構想とハザードマップへの利活用への展望．2008 年度東京大学空間情報科学研究センター 第 11 回年次シンポジウム(CSIS DAYS 2008)「全国共同利用研究発表大会」研究アブストラクト集: 16, 12 月，柏．
- 植木岳雪 2008. 関東平野，多摩丘陵西部の鮮新—更新統の古地磁気層序．日本地質学会第 115 年学術大会講演要旨集: 80, 9 月，秋田．
- 青木秀則・植木岳雪・鈴木毅彦・青野道夫 2008. 茨城県立水戸第一高等学校の SPP「那珂台地のなりたちをテーマとして」．日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: A003-007(CD-ROM), 5 月，幕張．
- 白井正明・劉 海江・高川智博・岸本 瞬・佐藤慎司 2008. OSL 測定により得られた天竜川河口周辺における砂質粒子の露光率分布：運搬過程の指標としての可能性．日本堆積学会 2008 年大会要旨集: 13-14, 4 月，弘前．
- 白井正明・大村亜希子・大上隆史・若林 徹 2008. 熊野トラフ西縁の表層堆積物に見られる明治時代の大水害の痕跡．日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: J164-P004 (CD-ROM), 5 月，幕張．
- 白井正明 2008. OSL 強度測定に基づき推定する紀伊半島熊野沖表層に分布する砂粒子の動態．日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: G120-007 (CD-ROM), 5 月，千葉．
- 白井正明 2008. 新しい測定技術を利用した沿岸域の土砂移動解明への挑戦：天竜川・遠州灘流砂系への適用例．第 3 回「東京大学の海研究」シンポジウム要旨集: 36-39, 7 月，東京．
- 白井正明 2008. 陸から深海までの砂の旅：OSL を利用した砂粒子運搬過程評価．日本第四紀学会 2008 年大会講演要旨集 **38**: 38-39, 8 月，東京．
- Shirai, M., Liu, H., Takagawa, T., Kishimoto, S., and Sato, S. 2008. Sand grains transport process in the Tenryu River—Enshu Coast watershed, central Japan revealed by OSL measurement technique. *Abstracts of 6th International Conference on Asian Marine Geology*: 105, August, Kochi.
- 白井正明・劉 海江・高川智博・岸本 瞬・佐藤慎司 2008. 広域的な露光率分布から見た天竜川—遠州灘における砂粒子の運搬過程．日本地質学会第 115 年学術大会講演要旨集: 98, 9 月，秋田．
- 白井正明 2009. 砂粒が発する光が語る，天竜川河口周辺での砂の旅．科学技術特別振興費遠州灘プロジェクト第 3 回シンポジウム，1 月，浜松．
- 白井正明・劉 海江・佐藤慎司 2009. 長石の露光率分布から見た天竜川—遠州灘の砂の旅：

- OSL 測定的应用. ESR 応用計測 **25**: 30, 3月, 浜松.
- 白井正明・劉海江・佐藤慎司 2009. 遠州灘表層砂の露光率分布から推定される波浪限界水深. 日本堆積学会 2009 年大会要旨集: 5-6, 3月, 大阪.
- 田村糸子・高木秀雄・林 広樹・山崎晴雄 2008. 東京都江東区地下 1217m より発見された鮮新世ざくろ石テフラとその対比. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集 Q139-001 (CD-ROM), 5月, 幕張.
- 田村糸子・岡田 誠・正田浩司・山崎晴雄 2008. 房総に分布する千倉層群の鮮新世テフラ層序とその対比. 日本地質学会関東支部 第 2 回研究発表会「関東地方の地質」講演資料集: 39-40, 6月, 東京.
- Tamura, I., Yamazaki, H., and Mizuno, K. 2008. Plio-Pleistocene tephrochronology in central Japan. *The 33rd International Geological Congress Abstract: HPS07-424P (CD-ROM)*, August, Oslo, Norway.
- 大井信三・山家慎之助・北村京子・田村糸子・安藤寿男 2008. 茨城県瓜連丘陵最上部の第四系火砕質イベント堆積物とその起源. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: Q139-P017(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 高木秀雄・田村糸子・樺山紀子 2008. 2.5Ma の丹沢火山の証拠ー関東の含ざくろ石角閃石テフラの検討からー. 日本地質学会関東支部 第 2 回研究発表会「関東地方の地質」講演資料集: 4-5, 6月, 東京.
- 大石雅之 2008. 斜長石斑晶の屈折率を用いたテフラ対比法の有効性の検討. 日本第四紀学会講演要旨集 **38**: 110-111, 8月, 東京.
- 大石雅之 2008. 斑晶鉱物, 特に斜長石斑晶の屈折率に基づく北関東テフラの同定. 日本地質学会関東支部第 2 回研究発表会「関東地方の地質」, 48-51, 6月, 東京.
- 村岸 純 2008. 房総半島における元禄関東地震後の影響. 日本第四紀学会講演要旨集 **38**: 22-23, 8月, 東京.
- 村岸 純 2008. 房総半島における元禄関東地震時の地殻変動とその後の沈降運動. 歴史地震研究会第 25 回大会, 9月, つくば.
- 安藤広一・山崎晴雄・中村恭志 2008. コンピュータシミュレーションを用いた断層撓曲と断層パラメータの解明ー立川断層を事例としてー. 日本第四紀学会 2008 年大会講演要旨集 **38**: 94-95, 8月, 東京.
- 安藤広一・山崎晴雄・中村恭志 2008. コンピュータシミュレーションを用いた断層撓曲と断層パラメータの解明ー立川断層を事例として. 第 7 回アジア国際地震学連合総会・2008 年日本地震学会秋季大会合同大会講演予稿集: 72, 11月, つくば.
- 八幡 啓・山崎晴雄 2008. 千葉県旧周南村における関東地震の家屋被害ー地形・地質要因と推定震度分布ー. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: S141-001 (CD-ROM), 5月, 幕張.
- 八幡 啓・山崎晴雄 2008. 2007 年能登半島地震・新潟県中越沖地震および 2008 年岩手・宮

城内陸地震における詳細建物被害分布と地形・地質的要因. 日本地理学会 2008 年度秋季
学術大会発表要旨集 **74**: 133, 10 月, 盛岡.

Yahata, K., and Yamazaki, H. 2008. Detailed distribution and the topographical and geological
factors of building damage caused by the earthquake: Case study of the Noto Hanto Earthquake
in 2007 and the Niigataken Chuetsu-oki Earthquake in 2007. *Abstracts of AGU Fall Meeting
2008*: S13C-1818, December, San Francisco, USA.

梶 琢・山崎晴雄・加藤幸弘 2008. 海底地すべり地形の特徴—渡島大島沖, 開聞岳沖を
例にして. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: Z159-012(CD-ROM), 5 月, 幕張.

Kaji, T., Yamazaki, H., and Kato, Y. 2008. Feature of the submarine landslides in the world.
Abstracts of International Geological Congress 2008: GHZ06106L, p.84, August, Oslo, Norway.

Kaji, T., Yamazaki, H., and Kato, Y. 2008. Relationship between morphological feature of submarine
landslides and geological condition—focus on Oshima-Oshima, Kaimon and Hawaii regions—. *Abstracts of AGU Fall Meeting 2008*: OS53A-1301, December, San Francisco, USA.

2 気候学研究室

1) スタッフ

松本 淳 (まつもと じゅん) 教授 / 博士 (理学)
モンスーン気候学, 環境気候学

高橋 日出男 (たかはし ひでお) 教授 / 理学博士
都市気候, 気候変動, 降水現象に関する気候学

中野 智子 (なかの ともこ) 助教 / 博士 (理学)
大気陸面相互作用, 炭素循環, 生物地球科学

2) 研究概要

気候学研究室では、都市・盆地といったマイクロスケールからグローバルスケールの気候変動に関することまで、様々なスケールにおける「気候形成」の理解を目指した研究を行っている。研究手法も多岐にわたり、現地での気象観測・観測資料の収集・気候データセットを用いた数値解析など、様々な手法を用い、気候の復元や気候形成のプロセス・メカニズムの理解に向けて取り組んでいる。本研究室で行なわれている研究としては、次のようなものがある。

- ・都市気候の研究 (ヒートアイランド・クールアイランドの観測と分析、都市型集中豪雨の解析等)
- ・気候変動 (歴史時代・観測時代) の研究
- ・古気象観測記録のデータベース化に関する研究
- ・アジアモンスーンの季節推移と気候変動の研究
- ・半乾燥地の草原生態系における二酸化炭素交換の観測

3) 研究成果 (2008 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

浅田晴久・松本 淳・林 舟・小口 高 2008. ネパール東部・サガルマータ県における居住と地形条件との関係—地形図のデジタル化と GIS による解析. 地学雑誌 **117**: 561-567.
Murata, F., Terao, T., Hayashi, T., Asada, H., and Matsumoto, J. 2008. Relationship between atmospheric conditions at Dhaka, Bangladesh, and rainfall at Cherrapunjee, India. *Natural Hazards* **44**: 399-410.

- Wu, P., Yamanaka, M. D., and Matsumoto, J. 2008. The formation of nocturnal rainfall offshore from convection over western Kalimantan (Borneo) Island. *Journal of the Meteorological Society of Japan* **86A**: 187-203.
- Wu, P., Mori, S., Hamada, J.I., Yamanaka, M. D., Matsumoto, J., and Kimura, F. 2008. Diurnal variation of rainfall and precipitable water over Siberut Island off the western coast of Sumatra Island. *SOLA* **4**: 125-128.
- Wu, P., Hamada, J.I., Yamanaka, M. D., Matsumoto, J., and Hara, M. 2009. The impact of orographically-induced gravity wave on the diurnal cycle of rainfall over Southeast Kalimantan Island. *AOSL* **1**: 35-39.
- Yokoi, S., and Matsumoto, J. 2008. Collaborative effects of cold surge and tropical depression-type disturbance on heavy rainfall in central Vietnam. *Monthly Weather Review* **136**: 3275-3288.
- 鈴木博人・高橋日出男 2008. 関東平野における降水の空間代表性—鉄道と気象庁の降水量データを用いた統計解析. *自然災害科学* **27**: 161-173.
- 鈴木博人・中北英一・高橋日出男 2009. 雨量計の観測値を用いた降水量の空間代表性の解析. *水工学論文集* **53** (CD-ROM).
- Nakano, T., Nemoto, M., and Shinoda, M. 2008. Environmental controls on photosynthetic production and ecosystem respiration in semi-arid grasslands of Mongolia. *Agricultural and Forest Meteorology* **148**: 1456-1466.
- Grossman, M.J., and Zaiki, M. 2008. Reconstructing typhoon landfalls in Japan in the 19th century using GIS. *Papers of the Applied Geography Conferences*. Ed. Harrington, L.M.B., and Harrington, Jr., J.A. **31**:152-161.
- Zaiki, M., Können G.P., Kimura, K., Mikami, T., and Tsukahara, T. 2009. Reconstruction of historical pressure patterns over Japan using two-point pressure-temperature datasets since the nineteenth century. *Climatic Change* doi: 10.1007/s10584-009-9563-9.
- Grossman, M., and Zaiki, M. 2009. Reconstructing typhoons in Japan in the 1880s from documentary records, *Weather* doi: 10.1002/wea.401.
- 渡邊穰次・石井 守・松田佳久 2008. イオノゾンデを用いたオーロラサブストーム時の電離圏変動. *南極資料* **52**: 409-420.
- その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)
- 林 泰一・松本 淳 2008. ベンガル湾のサイクロン Nirgis. *科学* **78**: 698-700.
- 藤部文昭・松本 淳・小林健二 2008. 区内観測による日降水量データのデジタル化と気候研究への利用における問題点. *天気* **55**: 283-287.
- 山川修治・松本 淳・丸山茂徳・笠原順三 2008. 小特集「グローバル気候変動(Part II)」序説. *地学雑誌* **117**: 1011-1014.
- Matsumoto, J., and Yamamoto, S. 2009. Rainy seasons in the Nansei-shotou (Southwest Islands) of

- Japan. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **44**: 71-78.
- 松本 淳 2009. アジアモンスーン気候の解明にむけて—国際共同研究 MAHASRI. *Japan Geoscience Letters* **5**(1): 14-16.
- Takahashi, H. 2008. Long-term variability in the summertime rainfall intensity in Japan: Regional difference and decadal scale variation. *Proceedings of 18th International Congress of Biometeorology (ICB2008), Symposium on Climate Variation “Climate variations and weather disasters”*: Clim Variat-S05(CD-ROM).
- 中野智子・根本 学・篠田雅人 2008. モンゴル半乾燥草原における土壌水分と生態系呼吸. 2008 土壌水分ワークショップ論文集: 35-38.

報告書

- 松本 淳 2008. 東京大学 文部科学省研究開発局 地球観測システム構築推進プラン「東南アジアにおける降雨観測システムの構築」平成 19 年度研究成果報告書, 112p.
- 高橋日出男・鈴木博人 2009. 平成 20 年度首都大学東京・東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センターテクニカルセンター共同研究報告書「降水量の空間代表性とその気象擾乱依存性に関する研究」(首都大学東京 研究代表者 高橋日出男), 45p+ii.

書評

- 松本 淳 2008. 吉野正敏著「気候学の歴史」. 地学雑誌 **117**: 1096-1098.
- 中野智子 2009. 松山 洋・谷本陽一著, UNIX/Windows/Macintosh を使った 実践! 気候データ解析(第二版). 雪氷 **71**: 28.
- 財城真寿美 2008. 村越 真・若林芳樹編著, GIS と空間認知—進化する地図の科学. 地図情報 **28**(2): 28.

講演・学会発表

- Sakurai, N., Mori, S., Kawashima, M., Fujiyoshi, Y., Hamada, J. I., Fudeyasu, H., Tabata, Y., Fadli Syamsudin, Emrizal, Yamanaka, M. D., and Matsumoto, J. 2008. Case study on internal structure of westward migratory cloud systems with diurnal cycle observed in the west Sumatera during HARIMAU2006 campaign. The 28th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology, April, Orlando, Florida, USA.
- 佐藤晋介・久保田拓志・蔵治光一郎・松本 淳 2008. 東南アジアにおける陸上降雨量の推定精度. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 **93**: 116, 5 月, 東京.
- Wu, P., Hamada, J. I., Yamanaka, M. D., Matsumoto, J., and Hara, M. 2008. The impact of orographically induced gravity wave on the diurnal cycle of rainfall over Southeast Kalimantan Island. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 **93**: 239, 5 月, 東京.
- Ichiyangi, K., Yoshimura, K., Matsumoto, J., and Yamanaka, M. D. 2008. Seasonal variability of

- stable isotopes in precipitation over Thailand. The 4th International Symposium on Isotopomers (ISI2008), October, Tokyo.
- 松本 淳・樋口篤志・山中大学・森 修一・伍 培明・荻野慎也・小池俊雄・横井 寛 2008. アジアモンスーン観測年(AMY). 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: J249-001 (CD-ROM), 5 月, 幕張.
- Ichiyangi, K., Yoshimura, K., Yamanaka, M. D., and Matsumoto, J. 2008. Simulation of water origins over the Asian monsoon regions by using Colored Moisture Analysis (CMA) with JRA25 reanalysis. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: J249-P001 (CD-ROM), 5 月, 幕張.
- Matsumoto, J., Sato, S., Takahashi, H., Yasunari, T., Fujinami, H., and Yokoi, S. 2008. Rainfall observations in Southeast Asia – From the space and from the ground –. The Second Global Precipitation Measurement (GPM) Asia Workshop, June, Hamamatsu.
- Matsumoto, J., Wang, B., Wu, G. X., Li, J. P., Wang, D. X., Lee, D. I., Ailikun, Koike, T., Wu, P., Mori, S., Ogino, S., Yamanaka, M.D., Higuchi, A., and Yokoi, S. 2008. AMY (Asian Monsoon Years) coordinated observations. The 5th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting: AS16-A015 (CD-ROM), June, Busan, Korea.
- Ichiyangi, K., Yoshimura, K., Matsumoto, J., and Yamanaka, M. D. 2008. Daily variability of stable isotopes in precipitation and estimated water origins in the Asian monsoon regions. The 5th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting: AS16-A017 (CD-ROM), June, Busan, Korea.
- Yamanaka, M. D., Hashiguchi, H., Mori, S., Wu, P.M., Hamada, J. I., Kawashima, M., Fujiyoshi, Y., Ohi, M., Sakurai, N., Fudeyasu, H., Shirooka, R., Katsumata, M., Ichiyangi, K., Tachibana, Y., Ogino, S. Y., Shimomai, T., Shibagaki, Y., Yamamoto, M. K., Syamsudin, F., Djajadihardja, Y. S., Anggadiredja, J. T., Manik, T., Erlansyah, Setiawan, W., Tejasukmana, B., Masuda, K., and Matsumoto, J. 2008. HARIMAU radar-profiler network observations of intraseasonal variations over Indonesian maritime continent. The 5th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting: AS16-A020 (CD-ROM), June, Busan, Korea.
- Hamada, J. I., Mori, S., Sakurai, N., Yamanaka, M. D., Matsumoto, J., and Syamsudin, F. 2008. Diurnal rainfall variations over the Indonesian maritime continent and their link to intraseasonal variations of convection. The 5th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting: AS16-A021 (CD-ROM), June, Busan, Korea.
- Wang, B., Matsumoto, J., Wu, G. X., Yasunari, T., and Li, J. P. 2008. Science issues in Asian Monsoon Years (2007-2012). The 5th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting: AS16-A013 (CD-ROM), June, Busan, Korea.
- Mori, S., Sakurai, N., Hamada J.-I., Matsumoto, J., and Yamanaka, M. D. 2008: Nocturnal re-development of coastal convection propagated from Western Sumatera Island, Indonesia, observed with JEPP/HARIMAU radars. Proceedings of the 5th European Conference on Radar

- in Meteorology and Hydrology Conference (ERAD2008): 12, July, Helsinki, Finland.
- Sakurai, N., Mori, S., Kawashima, M., Fujiyoshi, Y., Hamada, J. I., Fudeyasu, H., Tabata, Y., Fadli Syamsudin, Emrizal, Yamanaka, M.D., and Matsumoto, J. 2008. Case study on internal structure of westward migratory cloud systems with diurnal cycle observed in the west Sumatera during HARIMAU2006 campaign. Proceeding of the ERAD 2008 Conference, the Fifth European Conference on Radar in Meteorology and Hydrology, July, Helsinki, Finland.
- Matsumoto, J., Yokoi, S., Wu, P. M., Hara, M., Fadli Syamsudin, Reni Sulistyowati, and Yusuf S. Djajadihardja 2008. Heavy rainfall in Southeast Asia and multi-scale interactions. The 31st International Geographical Congress, August, Tunis, Tunisia.
- 上米良秀行・増田耕一・服部美紀・森 修一・濱田純一・櫻井南海子・松本 淳・山中大学 2008. 西スマトラレーダー・雨量計統合降水量データの試作と検証. 水文・水資源学会 2008 年度研究発表会, 8 月, 東京.
- Matsumoto, J., Kanamori, H., and Yokoi, S. 2008. Heavy rainfalls in central Vietnam. Extended Abstracts of the Third International Symposium for the East Asian Monsoon Experiment and MAHASRI: 30-31, September, Chung-Li, Taiwan.
- Yamanaka, M.D., Mori, S., Wu, P. M., Hamada, J. I., Endo, N., Tachibana, Y., Matsumoto, J., and Fadli Syamsudin 2008. Long coastlines of maritime continent governing the global climate. Extended Abstracts of the Third International Symposium for the East Asian Monsoon Experiment and MAHASRI: 38-46, September, Chung-Li, Taiwan.
- Wu, P.M., Hara, H., Yamanaka, M.D., and Matsumoto, J. 2008. Torrential rains over Java Island caused by the interaction of the trans-equatorial Asian winter monsoon with local circulations. Extended Abstracts of the Third International Symposium for the East Asian Monsoon Experiment and MAHASRI: 47-48, September, Chung-Li, Taiwan.
- 櫻井南海子・森 修一・川島正行・藤吉康志・濱田純一・筆保弘徳・田畑悦和・Emrizal Fadli Syamsudin・山中大学・松本 淳 2008. HARIMAU2006 期間中に観測された日周期で移動する降水システムの内部構造及び移動メカニズムについて. 第 2 回赤道大気レーダーシンポジウム・第 105 回生存圏シンポジウム, 9 月, 京都.
- 上米良秀行・増田耕一・森 修一・濱田純一・櫻井南海子・松本 淳・山中大学 2008. 西スマトラにみる降水日変化の地理的分布. 第 2 回赤道大気レーダーシンポジウム・第 105 回生存圏シンポジウム, 9 月, 京都.
- 濱田純一・森 修一・櫻井南海子・山中大学・松本 淳・Fadli Syamsudin 2008. スマトラ島周辺の降水特性と対流季節内変動の関連. 第 2 回赤道大気レーダーシンポジウム・第 105 回生存圏シンポジウム, 9 月, 京都.
- 山中大学・森 修一・伍 培明・濱田純一・櫻井南海子・遠藤伸彦・立花義裕・橋口浩之・Fadli Syamsudin・松本 淳 2008. 海陸風循環が決める地球赤道域の雨量分布. 日本流体力学会年会 2008, 9 月, 神戸.

- 一柳錦平・芳村 圭・松本 淳・山中大学 2008. タイにおける降水の安定同位体比の変動とアジアモンスーン. 2008 年日本水文科学会学術大会要旨集: 85-86, 9 月, 千葉.
- Matsumoto, J., Zaiki, M., Hirano, J., Ohtsuka, M., and Mikami, T. 2008. Climatic changes in monsoon Asia based on historical documents and old observation data. The Third Korea-China-Japan Joint Conference on Geography, October, Cheongju, Korea.
- Zhou, T.J., Hsu, H.H., and Matsumoto, J. 2008. East Asian, Indochina and western North Pacific summer monsoon. WMO 4th International Workshop on Monsoon (IWM-IV), October, Beijing, China.
- 松本 淳・里村雄彦・樋口篤志・鼎 信次郎・横井 覚・伍 培明・山中大学・増田耕一・金森大成 2008. MAHASRI と AMY. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 61, 11 月, 仙台.
- 上米良秀行・増田耕一・森 修一・濱田純一・櫻井南海子・松本 淳・山中大学 2008. インドネシア西スマトラにみる降水日変化の地理的分布. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 68, 11 月, 仙台.
- 山中大学・森 修一・伍 培明・濱田純一・櫻井南海子・遠藤伸彦・立花義裕・橋口浩之・Fadli Syamsudin・松本 淳 2008. 海岸線の長さが決める赤道域の雨量. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 70, 11 月, 仙台.
- 森 修一・濱田純一・櫻井南海子・川島正行・橋口浩之・Fadli Syamsudin・松本 淳・山中大学 2007. スマトラ島沿岸域における対流系の日周期移動と海上際発達について—HARIMAU2006 観測結果第 2 報. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 211, 11 月, 仙台.
- 荻野慎也・野津雅人・立花義裕・藤原正智・里村雄彦・松本 淳・Nguyen Thi Tan Thanh 2008. ベトナム・ハノイにおける対流圏下層の逆転層と広域循環との関係. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 374, 11 月, 仙台.
- 赤坂郁美・松本 淳 2008. フィリピンにおける 20 世紀の降水特性の長期変化傾向. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 376, 11 月, 仙台.
- Matsumoto, J. 2009. MAHASRI, AMY 2007-2012, MAIRS, and impact of land-use changes on Indian summer monsoon. The First SELIS International Workshop Eco-Climate Dynamics in Eurasia/Monsoon Asia, January, Nagoya.
- Satoh, S., Kubota, T., Kuraji, K., and Matsumoto, J. 2008. Comparison of over-land rainfall from GSMaP, TRMM/PR, and gauges in Southeast Asia. The 4th International Workshop on Precipitation Retrieval Algorithms Using Satellite Microwave Radiometer, Radar and IR Data, February, Tokyo.
- Yamanaka, M. D., and Matsumoto, J. 2009. GEOSS-WCRP collaboration in MAHASRI and HARIMAU. The 3rd Asia-Pacific GEOSS Symposium, February, Kyoto.
- Matsumoto, J. 2009. Current status of MAHASRI and AMY. The International MAHASRI/HyARC

- Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Mori, S., Sakurai, N., Hamada J. I., Matsumoto, J., and Yamanaka, M. D. 2009. Nocturnal re-development of coastal convections propagated from western Sumatera Island, Indonesia, observed with JEPP/HARIMAU radars. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Wu, P., Hara, M., Yamanaka M. D., and Matsumoto, J. 2009. The favorable atmospheric conditions for occurrence of repeated torrential rains over Jakarta in Java Island. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Endo, N., Wu, P, Yamanaka M. D., Matsumoto, J., and Fadli Syamsudin 2009. Inter-comparison of precipitable water observed by GPS and AIRS in the Maritime Continent. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Ogino, S.Y., Fujiwara, M., Shiotani, M., Hasebe, F., Matsumoto, J., Hhuy Ha Hoang, and Nguyen Thi Tan Thanh 2009. Ozone variations over the Northern subtropical region revealed by ozonesonde observations in Hanoi. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Kamimera, H., Masuda, K., and Matsumoto, J. 2009. Radar-raingauge data integration in southeast Asia. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Ichiyanagi, K., Yoshimura, K., Yamanaka, M. D., and Matsumoto, J. 2009. Stable isotopes in precipitation at Danang, Vietnam. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- Sakurai, N., Mori, S., Kawashima, M., Fujiyoshi, Y., Hamada, J. I., Fudeyasu, H., Tabata, Y., Yamanaka, M.D., Matsumoto, J., and Emrizal, Fadli Syamsudin 2009. Internal structure of westward migratory cloud systems with diurnal cycle in west Sumatera observed on 10 November, 2006 during HARIMAU2006 campaign. The International MAHASRI/HyARC Workshop, March, Danang, Vietnam.
- 赤坂郁美・増田耕一・森島 濟・松本 淳 2009. 20世紀以降のフィリピンにおける降水量の季節進行. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 179, 3月, 東京.
- Takahashi, H. 2008. Long-term variability in the summertime rainfall intensity in Japan: Regional difference and decadal scale variation. 18th International Congress of Biometeorology (ICB2008). Symposium on Climate Variation "Climate variations and weather disasters", Abstract: 83. September, Tokyo.
- 高橋日出男・中村康子・鈴木博人 2008. 東京都心域における夏季の強雨頻度分布と高層建築物群との関係. 日本地球惑星科学連合 2008年大会予稿集: X156-002(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 高橋日出男・中村康子・鈴木博人・赤塚幸恵 2008. 夏季の東京都心域における強雨発現頻度分布の風速による差異. 日本地理学会 2008年度秋季学術大会発表要旨集 **74**: 45, 10

- 月，盛岡。
- 鈴木博人・中北英一・高橋日出男 2009. 雨量計の観測値を用いた降水量の空間代表性の解析. 第53回水工学講演会, 3月, 東京.
- 高橋日出男・内山真悟・大和広明・大久保さゆり・高橋一之・鈴木博人 2009. 2008年8月5日に東京都区部で発生した短時間強雨について (1)強雨域の挙動と地上風系. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 169, 3月, 八王子.
- 高橋日出男 2009. コメント(日下ほかおよび福岡ほか). 「シンポジウム 局地循環と都市気候」, 日本地理学会 2009年度春季学術大会, 3月, 八王子.
- 中野智子・根本 学・篠田雅人 2008. モンゴル半乾燥草原における生態系呼吸速度の変動とその制御要因. 日本土壌肥料学会講演要旨集 **54**: 12, 9月, 名古屋.
- 中野智子・篠田雅人 2008. モンゴル半乾燥草原における生態系呼吸速度の制御要因. 日本農業気象学会関東支部 2008年度例会講演要旨集(関東の農業気象 E-journal **5**): 13, 11月, つくば.
- Nakano, T., and Shinoda, M. 2008. Dependence of ecosystem respiration on soil temperature, moisture and plant biomass in a semi-arid grassland. AGU Fall Meeting 2008: B11A-0338 (CD-ROM), December, San Francisco, USA.
- Zaiki, M., Grossman, M., Tsukahara, T., and Mikami, T. 2008. Instrumental records in Japan in the 19th century and their climatological significance. The Association of American Geographers 2008 Annual Meeting Abstracts: 775, April, Boston, USA.
- Grossman, M., Zaiki, M., and Mikami, T. 2008. Reconstructing typhoon landfalls in Japan in the 19th century using data from historical documents. The Association of American Geographers 2008 Annual Meeting Abstracts: 271, April, Boston, USA.
- Mikami, T., Hirano, J., and Zaiki, M. 2008. Climate reconstruction in Japan based on the historical weather records. The Association of American Geographers 2008 Annual Meeting Abstracts: 476, April, Boston, USA.
- 財城真寿美 2008. 日本における歴史資料にもとづく気候復元研究の現状と課題 (Japanese climate reconstructions based on historical documents and their climatological significance). 日本地球惑星科学連合 2008年大会予稿集: L133-001 (CD-ROM), 5月, 幕張.
- Grossman, M. J., and Zaiki, M. 2008. Reconstructing typhoon landfalls in Japan in the 19th century using GIS. Papers of the Applied Geography Conferences **31**: 152-161, October, Delaware, USA.
- Masuda, K., Ichino, M., Kubota, H., Akasaka, I., Zaiki, M., and Matsumoto, J. 2008. Recovering meteorological data of pre-World War II Philippines. The 4th PMS Convention Abstracts: 16-17, November, Manila, Philippines.
- Zaiki, M. 2009. Historical climatology and environmental GIS – An overview of personal research –. ISIG Séminaire: Geomatics in historical and geographical studies, contrasted examples from Japan and France, February, Lyon, France.

- 財城真寿美・磯田道史・八田浩輔・秋田浩平・三上岳彦・塚原東吾 2009. 19世紀(1852-1868年)の水戸における気温観測記録の均質化. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 234, 3月, 八王子.
- Kanamori, H., Kamimera, H., Agata, Y., and Matsumoto, J. 2009. Time-space characteristics of heavy rainfall event in central Vietnam from mid-October to mid-November 2007. International MAHASRI/HyARC Workshop on Asian Monsoon and Water Cycle: 23, March, Da Nang, Viet Nam.
- Fukushima, A., Takahashi, H., and Matsumoto, J. 2008. The transition of the circulation during the pre-monsoon season related to the rainfall phenomena in Nepal. 31st International Geographical Congress, Abstract: 138-139, August, Tunis, Tunisia.
- 福島あずさ・高橋日出男・松本 淳 2008. ネパールにおけるプレモンスーン季の降水プロセスと循環場の季節進行. 日本気象学会 2008年度秋季大会講演予稿集 **94**: 474, 11月, 仙台.
- 大久保さゆり・高橋日出男 2009. 大気環境常時監視データを用いた国内の SPM(浮遊粒子状物質)濃度の時空間変動. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 236, 3月, 八王子.
- 大和広明・高橋日出男・三上岳彦 2009. 首都圏のヒートアイランド現象—広域 METROS の観測データを用いて. 「シンポジウム 局地循環と都市気候」, 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 35, 3月, 八王子.
- 高橋一之・三上岳彦・高橋日出男 2008. 夏季における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係(第1報)—海陸風と気温分布との関係の統計的解析. 日本気象学会 2008年度春季大会講演予稿集 **93**: 461, 5月, 横浜.
- 高橋一之・三上岳彦・高橋日出男 2008. 夏季における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係(第2報)—ヒートアイランドに伴う静穏域の存在. 日本気象学会 2008年度春季大会講演予稿集 **93**: 294, 5月, 横浜.
- Hoque, R., Nakayama, D., Matsuyama, H., and Matsumoto, J. 2008. Delineation of precipitation and inundation area in Bangladesh using remote sensing, GIS and ground data. Environmental Forum of International Students, November, Tokyo.
- Hoque, R., Takahashi, H., and Matsumoto, J. 2009. Long term variability of intense precipitation and occurrences of flood in Bangladesh and surrounding area. The seminar of “Sustainability of human activity”, January, Kyoto.
- Hoque, R., Nakayama, D., Matsuyama, H. and Matsumoto, J. 2009. Development of the flood inundation map, flood hazard map and assessment using microwave remote sensing and GIS. The 2nd International Conference on Water and Flood Management—ICWFM 2: 749-756, March, Dhaka, Bangladesh.
- 大塚道子・松本 淳・藤部文昭・小林健二 2008. 区内観測による日降水量データを用いた

- 関東地方における降水の長期トレンド解析. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 245, 11 月, 仙台.
- 紺野祥平・高橋日出男 2008. 埼玉県鳩山町における冬季夜間の気温逆転層について. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 72, 11 月, 仙台.
- 清水昭吾・高橋日出男・三上岳彦・泉 岳樹 2009. 都市内緑地におけるクールアイランド強度とその季節変化. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 171, 3 月, 八王子.
- 平野淳平 2009. 日本における小氷期後半の暖候期の気候変動. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 232, 3 月, 八王子.
- 瀬戸芳一 2008. 関東平野における風系構造の把握に向けた地表面粗度による観測風の補正手法. 日本地理学会 2008 年度秋季学術大会発表要旨集 **74**: 120, 10 月, 盛岡.
- 瀬戸芳一 2008. 地表面粗度による観測風の補正手法を用いた関東平野における風系構造の把握. 第 49 回気候影響・利用研究会シンポジウム予稿集: 14, 11 月, 東京.
- 瀬戸芳一・高橋日出男 2009. 地表面粗度による観測風の補正手法を用いた関東平野における風系構造の把握. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 162, 3 月, 東京.
- 山島亮二・松本 淳・高田久美子 2008. 歴史的な土地利用の変化が大気場に及ぼした影響. 日本気象学会 2008 年度秋季大会講演予稿集 **94**: 259, 11 月, 仙台.
- 吉川茂幸・高橋日出男 2009. 極東域における冬季低気圧経路と大気循環場との関係. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 174, 3 月, 八王子.
- 岡 暁子・三上岳彦・泉 岳樹・清水昭吾・成田健一 2008. 皇居のクールアイランド効果について(その 3)―皇居周辺への影響範囲とにじみ出し. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 **93**: 297, 5 月, 横浜.

3 環境地理学研究室

1) スタッフ

渡邊眞紀子 (わたなべ まきこ) 教授 / 理学博士
土壌学

岡 秀一 (おか しゅういち) 准教授 / 理学博士
植生地理学, 景観生態学

大山 修一 (おおやま しゅういち) 准教授 / 博士 (人間・環境学)
地域研究 (アフリカ・南米), 環境地理学, 生態人類学

2) 研究概要

この研究室では、環境と人類とのダイナミックな関係、そのグローバル性に着目しながら地球環境の自然変動とその人為的な変動の機構を、いろいろな時・空間スケールで捉えて、総合的・学際的アプローチによって解明しようとする研究を展開している。そのため、伝統的な自然地理学の枠のなかにとらわれず、自然・人文にわたる環境諸科学と密接な連携を保ちながら、柔軟かつ幅の広い研究活動を実施している。研究方法としては、フィールド・ワークと現地における観測や計測調査、参与観察を基本としながらも、空中写真や衛星観測データ等の利用・解析を重用している。研究地域は、国内はもとより、広く海外に及んでいる。海外では、アフリカ地域の環境変動と人間対応、南・北アメリカやシベリア地域の植生と気候景観、熱帯海域のサンゴ礁およびヨーロッパも含むカルスト景観、マングローブ植生の解明、さらにアフリカ・ウッドランド帯における焼畑農耕民の文化生態的研究に重点を置いている。最近の主要なテーマには、以下のものがある。

- 1) 高山・亜高山の自然景観とその変動をめぐる地生態学的研究
- 2) 亜熱帯島嶼小笠原における水文気候環境からみた植生景観形成に関する研究
- 3) 植生や土地利用からみた気候景観の研究
- 4) サバンナ化・砂漠化・荒廃景観の形成など、環境劣悪化のプロセス研究
- 5) アフリカのサバンナ地域における環境変動と人間対応に関する研究
- 6) アフリカ・サヘル帯における荒廃地の修復に関する応用生態学的研究
- 7) アフリカ・ウッドランド帯における焼畑農耕社会の形成と農法の展開様式に関する文化地理学的研究
- 8) 南米・アンデスにおけるラクダ科動物とジャガイモのドメスティケーションに関する研究

3) 研究成果 (2008 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

- 佐藤峰華・岡 秀一 2009. 北八ヶ岳・前掛山における亜高山帯針葉樹林の更新パターンと立地環境. 地理学評論 **82**: 144-160.
- 大山修一・山本紀夫・近藤 史 2009. ジャガイモの栽培化—ラクダ科動物との関係から考える. 国立民族学博物館調査報告 **84**: 177-203.
- 大山修一 2009. 南米・アンデス山脈における植物の生育する土壌環境と窒素吸収—ジャガイモのドメスティケーションとの関連で. ヒマラヤ学誌 **10**: 86-102.
- 土屋俊幸 2009. 流域における水環境・住民意識・保全活動の相互関係—酒匂川を事例に. 環境情報科学論文集 **22**: 369-374.

その他の論文(査読なしの論文, 紀要・単行本の分担執筆を含む)

- Souri, B., Morishima, W., Rondal, J. D., and Watanabe, M. 2008. Contribution of moisture and organic matter on crystallinity of iron oxide minerals among Yellow Brown Forest soils in a tropical region. *Proceedings of the 15th Symposium of Society of Crystallography and Mineralogy of Iran, Mashhad*: 160-164.
- 外崎公德・松崎浩之・井上 弦・藤嶽暢英・渡邊眞紀子 2008. AMS ^{14}C 年代測定にもとづく土壌菌核粒子の炭素損失率. 第 10 回 AMS シンポジウム・プロシーディングス: 226-229.
- 岡 秀一 2008. 環境モニターとしての富士山のカラマツ低木林と樹木限界. 気候影響・利用研究会会報 **26**: 11-15.
- Oyama, S. 2009. Ecological knowledge of Hausa cultivators for the land degradation process in Sahel, West Africa. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **44**: 103-112.

編著書(単著・共著・編集など, 分担執筆は含まない)

- 青山高義・小川 肇・岡 秀一・梅本 亨 2009. 『日本の気候景観 増補版』古今書院.

報告書

- 岡 秀一 2008. 富士山における樹木限界の動態と環境変動に関する研究. 平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書, 182p.
- 坂上伸生・渡邊眞紀子 2009. 敷領遺跡(楠田地点)における土層の乱れ部位の土壌性状について. 文部科学省科学研究費補助金・特定領域研究「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」による発掘調査報告書: 46-49.

その他の報文(技術レポート, 商業誌, 解説・雑録など)

- 岡 秀一 2008. 多摩丘陵の谷戸を巡る小さな旅 第2回. 地理 53(5): 108-116.
- 岡 秀一 2008. 多摩丘陵の谷戸を巡る小さな旅 第3回. 地理 53(6): 96-101.
- 岡 秀一 2008. 多摩丘陵の谷戸を巡る小さな旅 第4回. 地理 53(8): 76-83.
- 大山修一 2007. 例会レポート 第47回民族自然誌研究会 狩猟・牧畜論再考—アンデスから見る. エコソフィア 20: 106.
- 大山修一 2008. アフリカ・ザンビア共和国における新土地法の成立と焼畑農耕社会の混乱. 熱帯農業研究 1(別2): 77-78.
- 大山修一 監修 2008. 砂漠は生きている!?!サハラ砂漠を大探検!. 週刊かがくるアドベンチャー 25:1-10 朝日新聞出版.
- 中山絵美子 2009. 多雪地域に生きる—融雪池「タネ」を活用した雪国の暮らし. 地理 54(2): 54-63.

講演・学会発表

- 村田智吉・Dela Cruz B.・Rondal J.・Palijon A.・谷口 悟・森島 濟・渡邊眞紀子 2008. ルソン島中央部における土壌有機炭素・窒素の蓄積量とその動態におよぼす草地—林地間の土地利用変化の影響. 日本土壌肥料学会, 9月, 名古屋.
- 渡邊眞紀子・野々山 弥 2008. 菌核の有害物質分解菌の担体(キャリアー)としての利用—土壌汚染の浄化技術への可能性. JST イノベーションブリッジ首都大学東京研究シーズ発表会, 11月, 秋葉原.
- 岡 秀一 2008. 街並みを読み解く環境学的な視点と方法. 平成20年度めぐろシティカレッジ講座「街並みから読み解く歴史と風土」, 5月, 東京.
- 大山修一 2008. 西アフリカ・サヘル地域の農村における砂漠化問題と世帯間の経済格差の拡大. 国立民族学博物館 共同研究会『生業と生産の社会的布置』, 5月, 弘前.
- 大山修一 2008. ニジェール共和国の農村における世帯間の経済格差と食料不足の原因. 第18回日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集: 29, 6月, 東京.
- 大山修一 2008. 地理環境科学と社会貢献—アフリカの砂漠化防止プロジェクト. 2008年度首都大学東京 大学説明会, 7月, 八王子.
- 大山修一 2008. 都市ゴミと生物活動を用いた砂漠緑化技術の開発—西アフリカ・サヘル地域において. 首都大学東京 南大沢キャンパス産学公交流会 2008, 7月, 八王子.
- 大山修一 2008. ジャガイモの野生種は南米・アンデス山脈のどこに生育してきたのか?—ラクダ科野生動物との関係で考えるジャガイモの栽培化. 総合地球環境学研究所 高地文明研究会, 10月, 京都.
- 大山修一 2008. アフリカ・ザンビア共和国における新土地法の成立と焼畑農耕社会の混乱. 日本熱帯農業学会第104回講演会, 10月, 鹿児島.
- 大山修一 2008. 西アフリカ・サヘル地域の砂漠化問題(1):砂漠化プロセスの解明. 法政大学 人間環境学セミナー『アフリカの環境保全と開発—人類学・地域研究の視点から』,

- 12月, 東京.
- 大山修一 2008. 西アフリカ・サヘル地域の砂漠化問題(2):問題解決へのアプローチ. 法政大学 人間環境学セミナー『アフリカの環境保全と開発—人類学・地域研究の視点から』, 12月, 東京.
- 大山修一 2008. ザンビアにおける土地制度の改正と焼畑農耕民社会の混乱. アジア経済研究所 共同研究会『アフリカ農村における住民組織と市民社会』, 12月, 東京.
- 坂上伸生・渡邊眞紀子 2009. ブナ林斜面の表層土壌におけるセノコッカム属菌核の分布変動と土壌有機物としての寄与. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 252, 3月, 八王子.
- Sakagami, N., and Watanabe, M. 2008. Distributional aspects of sclerotia, resting bodies of *Cenococcum* species as organic component in forest soils. The 19th International Geographical Congress, August, Tunis, Tunisia.
- 茗荷 傑 2008. 青ヶ島の事例にみる災害と土地機能の回復に関する考察. 日本地理学会 2008年度秋季学術大会発表要旨集 **74**: 138, 10月, 盛岡.
- 茗荷 傑 2009. 浅間山麓六里ヶ原周辺の土地機能回復過程に関する考察. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 50, 3月, 八王子.
- 野々山 弥・成澤才彦・太田寛行・渡邊眞紀子 2008. 土壌から検出される菌核の微生物担体としての機能. 第24回日本微生物生態学会, 11月, 札幌.
- 中山絵美子 2008. 多雪地域における融雪池「タネ」を活用した消雪システム—長野県飯山市の事例から—. 日本地理学会 2008年度秋季学術大会発表要旨集 **74**: 141, 10月, 盛岡.
- 中山絵美子 2009. 多雪地域における融雪池「タネ」の利用と役割—気候景観の視点から長野県飯山市の事例をとらえる. 日本地理学会 2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 110, 3月, 東京.
- 中山絵美子 2009. 多雪地域に生きる—融雪池「タネ」を活用した雪国の暮らし. 第88回地理学サロン, 3月, 東京.
- 小林由理亜 2009. 隠岐諸島西ノ島の放牧地におけるウシの行動と植生景観. 第29回関東生態学修士論文発表会, 3月, 川崎.
- 魚井夏子・渡邊眞紀子・坂上伸生・村田智吉 2009. 土地利用と造成の履歴に着目した都市土壌の評価手法の検討—北の丸公園を事例として. 日本地理学会2009年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 253, 3月, 八王子.
- 白柳かさね 2009. 神奈川県相模原市における家畜排泄物の処理と堆肥の利用—有機物資源の適正な循環にむけて. 相模原市立博物館研究発表会, 3月, 相模原.

4 地理情報学研究室

1) スタッフ

松山 洋 (まつやま ひろし) 准教授 / 博士 (理学)
水文気象学, 地理情報科学

泉 岳樹 (いずみ たけき) 助教 / 博士 (工学)
都市気候学, 地理情報科学, 数値気象モデル

中山 大地 (なかやま だいち) 助教 / 博士 (理学)
地理情報科学, リモートセンシング, 数値地形学

2) 研究概要

本研究室では、地形・気候・水文・植生などから構成される自然環境についての総合的理解を目指している。具体的には、質量保存・エネルギー保存・運動方程式などの物理法則に基づいて、原因から結果を説明しようとするアプローチと、フィールドでの調査・観測に基づいて事実を実証的に示そうとするアプローチを組み合わせる研究を進めている。このため、定量的データの収集・マッピング・統計解析・数値モデルなどを主要な方法論としている。

教員の研究と大学院生・卒研生の指導、および地理環境科学調査法 (V) を通じて取り組んでいきたいテーマには次のようなものがある。

- ・大気圏・水圏のエネルギーと水の循環に関する研究
- ・積雪分布および積雪水資源量の把握と融雪一流出に関する研究
- ・針葉樹の分光反射特性と葉面積指数の定量的評価に関する研究
- ・阿蘇周辺および東京周辺の水環境に関する研究
- ・都市気候の数値シミュレーションに関する研究
- ・都市における地表面状態の把握に関する研究
- ・自然環境と自然災害のモニタリング・モデリングに関する研究

3) 研究成果 (2008 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

中山大地・森永大介・松山 洋 2008. 洪水氾濫シミュレーションに基づく避難経路の歩行可能評価. 地学雑誌 **117**: 424-438.

Saito, H., Nakayama, D., and Matsuyama, H. 2008. Evaluating the estimation of landslide masses on a catchment scale in the Akaishi Mountains using data-mining techniques. *Proceedings of the International Conference on Management of Landslide Hazard in the Asia-Pacific Region, Sendai, Japan*: 601-612.

稲村友彦・岩崎一晴・齋藤 仁・中山大地・泉 岳樹・松山 洋 2009. 阿蘇山の特徴的な地形が局地風「まつぼり風」に及ぼす影響に関する数値実験. 天気 **56**: 123-138.

尾身 洋・長谷川宏一・泉 岳樹・松山 洋 2009. Terra/MODIS を用いた北方常緑針葉樹林における各種衛星指標の変化—植生の生育開始時期に着目して. 水文・水資源学会誌 **22**: 141-158.

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

松山 洋 2009. 熱帯の生活 (ペルー). 中村和郎・高橋伸夫・谷内 達・犬井 正編 『地理教育と系統地理』地理教育講座 IV 古今書院: 918-927.

松山 洋 2009. 「パラナ川」, 「ラプラタ川」, 「パラグアイ川」, 「アマゾン川」, 「トカンティンス川」, 「パトス湖」, 「オリノコ川」, 「マラカイボ湖」, 「マモレ川」, 「チチカカ湖」, 「メキシコ湾」, 「パナマ運河」. 高橋 裕・岩屋隆夫・沖 大幹・島谷幸宏・寶 馨・玉井信行・野々村邦夫・藤芳素生編 『川の百科事典』丸善.

Kariya, Y., Sato, G., and Kuroda, S. 2009. Effects of landslides on landscape evolution in alpine zone of Mount Shirouma-dake, northern Japanese Alps. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **44**: 63-70.

二瓶要功・長谷川宏一 2009. 親林教育「絆の森」開設—駒澤大学高等学校, 環境教育への挑戦—. 駒澤大学高等学校研究紀要 **25**: 1-11.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

松山 洋・谷本陽一 2008. 『UNIX/Windows/Macintosh を使った 実践 気候データ解析 第二版』 古今書院.

報告書

松山 洋・長谷川宏一 2008. カラマツ林における方向別反射特性の季節変化と日変化—光合成モデルに必要な樹冠構造パラメータ推定に向けて. 第10回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム資料集: 34.

松山 洋・泉 岳樹・長谷川宏一・本多嘉明・梶原康司 2008. 多方向放射観測データを用いた葉面積指数の推定. 千葉大学環境リモートセンシング研究センター年報 **13**: 56-57.

泉 岳樹 2009. 2-2 阿佐ヶ谷住宅再開発の経緯, 3-1 緩和型地区計画導入の妥当性, 3-2 市民による新たなまちづくりの試み. 石川幹子・陣内秀信・泉 岳樹・松本真澄編 『風と緑と光の田園住宅 失われようとしている集合住宅の名作—公団阿佐ヶ谷住宅』 東京大学

グローバル COE プログラム都市空間の持続再生学の展開 東京研究シリーズ **1**: 18-24, 29-34.

泉 岳樹・齋藤 仁 2008. 風の道「都江堰市周辺都市気候図」. 都江堰市震災復興ランドデザイン(東京大学, 慶應義塾大学, 西南交通大学): 41. (中国語)

書評

松山 洋 2008. 書評・紹介 (秋山 侃・石塚直樹・小川茂男・岡本勝男・齋藤元也・内田 諭 編著: 農業リモートセンシングハンドブック, システム農学会, 2007年1月, 511 ページ + DVD, 2,625 円). 地学雑誌 **117**: 585-586.

松山 洋 2008. 書架 (漆原和子編著: 石垣が語る風土と文化―屋敷囲いとしての石垣). 地理 **53**(6): 127.

松山 洋 2009. 書架 (伊藤喜栄・藤塚吉浩編著: 図説 21 世紀 日本の地域問題). 地理 **54**(1): 120.

松山 洋 2009. 書評「豪雨の災害情報学」. 水文・水資源学会誌 **21**: 48.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

松山 洋 2008. 地図学の聖地 (水平編). 地図ジャーナル **158**: 24-26.

松山 洋 2008. 地図学の聖地 (垂直編). 地図ジャーナル **159**: 24-26.

松山 洋 2009. 地図学の聖地 (番外編). 地図ジャーナル **160**: 26-28.

泉 岳樹 2008. 学会賞研究奨励部門を受賞して. 地理情報システム学会ニューズレター **68**: 12-13.

泉 岳樹 2008. 公開シンポ「環境の世紀を切り拓く」はいかに実現したか―安田講堂に繋がった TWV ネットワーク. TWV OB 会通信/名簿 2009 年: 44-45.

齋藤 仁 2008. 台湾における合同大会 (Taiwan and Japan Joint Symposium on Geomorphological Hazards and Management) 巡検報告. 地形 **29**: 227-233.

Saito, H., Nakayama, D., and Matsuyama, H. 2008. Quantitative analysis of landslide susceptibility and occurrence of landslides at catchment scale using data mining technique. *Transactions, Japanese Geomorphological Union* **29**: 221-222.

齋藤 仁・瓜田真司・松山 洋 2008. 平成 20 年 8 月末豪雨―東京都八王子市の事例. 地理 **53**(11): 110-114.

稲村友彦 2008. メソ数値気象モデルを用いた関東地方の風系に与える都市の影響に関する研究―東京における強雨日を対象にして. 2007 年度第 56 回全国地理学専攻学生卒業論文発表大会記録. 新地理 **56**(1): 44.

講演・学会発表

松山 洋(代理発表: 長谷川宏一) 2009. 八ヶ岳カラマツ林における方向別分光反射特性の季

- 節変化と植物フェノロジーの関係. 第 11 回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム, 2月, 千葉.
- 松山 洋・カダル＝ケズル 2009. 中央アジアのバルハシ湖周辺における 19 世紀末以降の降水量変動について. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 177, 3月, 八王子.
- 泉 岳樹 2008. 阿佐ヶ谷住宅建替え計画の問題点. 第 9 回成田地域まちづくりセミナー, 5月, 東京.
- 泉 岳樹 2008. 都江堰市周辺の都市気候図について. 中国四川省大地震都江堰市震災復興グラウンド・デザイン 第 2 回報告会, 7月, 東京.
- 泉 岳樹 2009. 阿佐ヶ谷住宅再開発の現状と課題. 東京大学グローバル COE プログラム「都市空間の持続再生学の展開」東京研究 第 1 回集合住宅再生研究会, 1月, 東京.
- 泉 岳樹 2009. 緩和型地区計画導入の現状と課題. 成田地域まちづくりセミナー 第 10 回記念公開シンポジウム「阿佐ヶ谷住宅の再生を考えるー21 世紀型 Garden City を目指して」, 3月, 東京.
- 泉 岳樹・三上岳彦・清水昭吾・岡 暁子 2008. 皇居のクールアイランド効果について (その 2)ー2006 年, 2007 年 8 月の観測結果. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 **93**: 296, 5月, 横浜.
- 泉 岳樹・河原 圭・広瀬雄一郎 2008. 環境三四郎 15 年の歩み. 環境三四郎 15 周年記念公開シンポジウム「環境の世紀を切り拓くーキャンパスからの変革ー」, 10月, 東京.
- 長谷川宏一・泉 岳樹・松山 洋・梶原康司・本多嘉明 2008. カラマツ林における方向別分光反射特性の日変化と季節変化. 水文・水資源学会 2008 年研究発表会要旨集: 266-267, 8月, 東京.
- 長谷川宏一・泉 岳樹・松山 洋・梶原康司・本多嘉明 2009. カラマツ林における方向別分光反射特性と植物フェノロジーの関係. 第 120 回日本森林学会, 3月, 京都.
- 齋藤 仁 2008. 衛星画像を用いた斜面崩壊発生地の抽出と斜面崩壊発生場の地形的特徴の検討. 研究集会「中山間地における自然環境と人間の生活」, 7月, 井川 (静岡).
- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2008. データマイニングを用いた斜面崩壊発生流域の推定と斜面崩壊の発生に関する定量的検討. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: Z159-009(CD-ROM), 5月, 幕張.
- Saito, H., Nakayama, D., and Matsuyama, H. 2008. Evaluating the estimation of landslide masses on a catchment scale in the Akaishi mountains using data-mining techniques. International Conference on Management of Landslide Hazard in the Asia-Pacific Region, November, Sendai.
- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2008. 数値標高モデルを用いた山地斜面の分割ー単位斜面の階層構造に着目して. 2008 年度東京大学空間情報科学研究センター 第 11 回年次シンポジウム(CSIS DAYS 2008)「全国共同利用研究発表大会」研究アブストラクト集: 37, 12月, 柏.

- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2009. 階層構造に着目した山地斜面の分割—解像度の異なる数値標高モデルを用いて. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 75: 215, 3月, 八王子.
- 稲村友彦・泉 岳樹・松山 洋 2008. メソ数値気象モデルを用いた関東地方の風系に与える都市の影響に関する研究—東京における強雨日を対象にして. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 93: 370, 5月, 横浜.
- 稲村友彦・岩崎一晴・齋藤 仁・中山大地・泉 岳樹・松山 洋 2008. 阿蘇山の中央火口丘と立野火口瀬および外輪山がまつぼり風発生に及ぼす影響に関する数値実験. 気候影響利用研究会・気候コロキウム合同シンポジウム, 11月, 東京.
- 尾身 洋 2008. Terra/MODIS を用いた北方常緑針葉樹林における各種衛星指標の変化—植生の生育開始時期に着目して. 気候コロキウム 2008 年 8 月例会, 8月, 八王子.
- 尾身 洋・泉 岳樹・松山 洋 2008. Terra/MODIS を用いた北方常緑針葉樹林における各種衛星指標の変化—植生の生育開始時期に着目して. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 93: 495, 5月, 横浜.
- 尾身 洋・長谷川宏一・泉 岳樹・松山 洋 2008. Terra/MODIS を用いた北方常緑針葉樹林における各種衛星指標の変化—植生の生育開始時期に着目して. 水文・水資源学会 2008 年研究発表会要旨集: 264-265, 8月, 東京.
- 中山祐介・小寺浩二・清水裕太 2008. 阿武隈川上流における水環境情報と GIS を用いた流域環境保全・管理に関する研究. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: X165-003(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 山崎秀太郎・近藤昭彦 2008. 下総台地の河川における硝酸態窒素濃度の分布と土地被覆との関係. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: H124-P008(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 比留間祐太 2008. オオシラビソの立地規定要因に関する定量的研究—決定木・多変量解析を用いて. 寒冷地形談話会 卒論修論構想発表会, 6月, 東京.
- 比留間祐太 2009. オオシラビソの立地規定要因に関する定量的研究—決定木を用いて—. 寒冷地形談話会 卒論修論発表大会, 3月, 東京.
- 成宮博之・中山大地・松山 洋 2008. 水文化的手法を用いた湧水の涵養域の推定に基づく日野台地および多摩丘陵における湧水の変化について. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: Z159-P013(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 成宮博之・中山大地・松山 洋 2008. 水文化的手法を用いた湧水の涵養域の推定と環境の変遷による湧水の変化について—東京都日野市を事例として—. 水文・水資源学会 2008 年研究発表会要旨集: 80-81, 8月, 東京.
- 坂本健二・中山大地・松山 洋 2008. 衛星画像の地形効果軽減に関する考察—太陽高度の低い時期を対象として. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: Z159-008(CD-ROM), 5月, 幕張.
- 加藤幹貴・泉 岳樹・中山大地・松山 洋・牛山克巳 2008. ラムサール条約登録湿地宮島沼

- における pH の変動とその要因の検討. 水文・水資源学会 2008 年研究発表会要旨集: 182-183, 東京.
- 三上岳彦・泉 岳樹・清水昭吾・岡 暁子 2008. 皇居のクールアイランド効果について (その 1)―皇居気象観測の全体像. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 **93**: 295, 5 月, 横浜.
- 岡 暁子・三上岳彦・泉 岳樹・清水昭吾・成田健一 2008. 皇居のクールアイランド効果について (その 3)―皇居周辺への影響範囲とにじみ出し. 日本気象学会 2008 年度春季大会講演予稿集 **93**: 297, 5 月, 横浜.
- 清水昭吾・高橋日出男・三上岳彦・泉 岳樹 2009. 都市内緑地におけるクールアイランド強度とその季節変化. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 171, 3 月, 八王子.
- 小荒井 衛・鈴木毅彦・中山大地・大井信三・佐藤 浩 2008. テフラ GIS の構築とハザードマップへの利活用. 日本第四紀学会 2008 年大会講演要旨集 **38**: 116-117, 8 月, 東京.
- Koarai, M., Suzuki, T., Nakayama, D., and Ooi, S. 2008. Development of tephra GIS and its application for hazard mapping. 31st International Geographical Congress, August, Tunis, Tunisia.
- 小荒井 衛・鈴木毅彦・中山大地 2008. テフラ GIS を活用した東北地方の火山ハザードマップ. 日本火山学会 2008 年度秋季大会, 10 月, 盛岡.
- 小荒井 衛・鈴木毅彦・中山大地・大井信三・中埜貴元 2008. テフラ GIS 構想とハザードマップへの利活用への展望. 2008 年度東京大学空間情報科学研究センター 第 11 回年次シンポジウム(CSIS DAYS 2008)「全国共同利用研究発表大会」研究アブストラクト集: 16, 12 月, 柏.
- 村上 亘・大丸裕武・小川泰浩・黒川 潮・多田泰之・三森利昭・安田正次・齋藤 仁 2009. 岩手宮城内陸地震において崩壊斜面背後の山地稜線部に形成された亀裂. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 217, 3 月, 八王子.
- 小寺浩二・中山祐介・清水裕太・小野寺真一 2008. 芦田川流域水環境の現況・復元・保全・再生・管理に関する研究―GIS を用いた小流域原単位流域モデル解析. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集: H124-P001(CD-ROM), 5 月, 幕張.
- Kodera, K., Nakayama, Y., Shimizu, Y., and Onodera, S. 2008. A study on the conservation, restoration, and management of the water environment in the river basin using GIS unit basin value method―A case of the Ashida river basin―. 31st International Geographical Congress, August, Tunis, Tunisia.
- 小寺浩二・中山祐介・清水祐太・村上哲生・藤井智康・西村弥垂 2008. チベット南東域の水環境に関する比較陸水学的研究. 日本陸水学会 第 73 回大会講演要旨集: 140, 10 月, 札幌.
- 小寺浩二・加藤愛淋・中山祐介・清水祐太・小野寺真一 2008. 小流域原単位法と GIS を用

いた河川流域の汚濁負荷に関する研究－佐波川と芦田川の比較を中心に. 日本陸水学会
第73回大会講演要旨集: 141, 10月, 札幌.

森本洋一・小寺浩二・中山祐介・森木良太 2008. 河川流域の水環境データベースに関する
地理学的研究－魚野川流域の事例. 日本地理学会 2008 年度秋季学術大会発表要旨集
74: 116, 10月, 盛岡.

5 都市・人文地理学研究室

1) スタッフ

杉浦 芳夫 (すぎうら よしお) 教授 / 博士 (理学)
人文地理学

若林 芳樹 (わかばやし よしき) 教授 / 博士 (理学)
都市地理学, 行動地理学, 地理情報科学

滝波 章弘 (たきなみ あきひろ) 准教授 / 博士 (文学)
文化地理学, ツーリズム, フランス語圏研究, 景観論

武田 祐子 (たけだ ゆうこ) 助教 / 博士 (文学)
地理情報システム, 都市地理学

坪本 裕之 (つぼもと ひろゆき) 助教 / 博士 (理学)
都市地理学, オフィス研究

原山 道子 (はらやま みちこ) 助教
計量書誌学

(大学院兼任)

菊地 俊夫 (きくち としお) 教授 / 理学博士
農業・農村地理学, オセアニア地誌, 自然ツーリズム学

2) 研究概要

この研究室は、人文地理学の分野を研究するグループである。人間との関係における地域ないし空間の問題を、人文・社会科学的側面からアプローチし、多様な人文現象の構造的な説明・解釈を目的としている。現在行なわれている研究は、様々なレベルに分類できる。対象地域としては、都市とその周辺地域を中心とし、事象としては産業活動、人間行動や意識、その他の種々の人文・社会現象、方法論としては計量的方法、統計的実証的手法、および文献検証的手法が使われ、対象時期は歴史時代より現代までおよぶ。「専門は深く」、「関心は広く」を標語にして、次のような研究が行なわれている。

1. 数理モデルによる人文地理的現象の解析：

- 1) 経済活動の立地
 - 2) 人・物の移動と情報の伝播
 - 3) 頭の中にイメージする地図と空間的行動
 - 4) 時間地理学的研究
2. 地域研究による人文地理的現象の解析：
- 1) 人間や経済活動や文化活動と環境との関わり合いに関する研究
 - 2) 都市近郊における土地利用変化と諸事象の地域形成に関する研究
 - 3) 人間がつくる地域組織や社会組織に関する研究
 - 4) 環境変化にともなう人間活動の変容に関する研究
3. 都市システムの解析：
- 1) 都市内部の空間構造の研究
 - 2) 都市群のシステム論的研究
4. 地理思想の研究：
- 1) 現代地理学の研究史
 - 2) 地理学研究分野の計量書誌学的研究

3) 研究成果 (2008 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

若林芳樹 2008. 地図のリテラシーと主題図の読図ー日本の女性地図帳の読み方. 地図 **46**(2): 24-27.

鈴木晃志郎・若林芳樹 2008. 日本と英語圏の旅行案内書からみた東京の観光名所の空間分析. 地学雑誌 **117**: 522-533.

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

杉浦芳夫 2008. 『南ドイツの中心地』の書評をめぐって. 理論地理学ノート **16**: 53-58.

金原慎一郎・杉浦芳夫・原山道子 2008. 都電をシンボルとした「ジョイフル三ノ輪」商店街の現状と課題. 理論地理学ノート **16**: 34-52.

若林芳樹 2008. 地理空間の認識とオントロジー. 村山祐司・柴崎亮介編『シリーズ GIS 1. GIS の理論』17-31. 朝倉書店.

若林芳樹 2009. 犯罪の地理学ー研究の系譜と課題. 金沢大学文学部地理学教室編『自然・社会・ひとー地理学を学ぶ』281-298. 古今書院.

Liang, H., and Wakabayashi, Y. 2009. Regional analysis of land use change between 2000 and 2005 in Inner Mongolia, China. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **43**: 113-121.

滝波章弘 2008. シチュアシオニスト・シティとしてのパリーー漂流／心理地理学的地図／ドキュメンタリー映画. 理論地理学ノート **16**: 1-21.

坪本裕之 2008. バブル経済期とその崩壊後の東京都心におけるオフィス従業者一人当たり床面積の変化. 都市研究 **8**: 9-24.

梁 海山 2009. 退耕還林還草政策による社会経済と土地利用変化の地域分析—中国内モンゴル通遼市を事例に. 兵庫教育大学地理学研究室報告 **14**: 25-32.

有馬貴之・和田英子・小原規宏・菊地俊夫 2009. 若者のレクリエーション行動からみた借楽園という観光空間. 観光科学研究 **2**: 49-64.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

杉浦芳夫監訳 2009. 『地理学の声—アメリカ地理学者の自伝エッセイ集—』古今書院.

村越 真・若林芳樹編 2009. 『GIS と空間認知—進化する地図の科学—』古今書院.

報告書

杉浦芳夫 2009. 『レッシュ集落立地論の誕生過程とそのナチ・ドイツ国土計画論への影響に関する研究(課題番号:19520682)』(平成19～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書)

書評

若林芳樹 2008. 村山祐司・柴崎亮介編：シリーズ GIS 第 4 巻 ビジネス・行政のための GIS. 地学雑誌 **117**: 686-688.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

坪本裕之 2008. 大会巡検報告 東京中心部の空間変容. 経済地理学年報 **54**: 363.

小泉 諒 2008. 東京大都市圏における若年者の就業・生活の地域的傾向とその規定要因. 経済地理学年報 **54**: 247-248.

講演・学会発表

若林芳樹・鈴木晃志郎 2008. 日本と英語圏の旅行案内書からみた東京の観光空間の可視化と解析. 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集 (Web), 5 月, 幕張.

若林芳樹 2008. カーナビの地図利用とその男女差に関する一考察. 第 17 回地理情報システム学会学術研究発表大会, 10 月, 東京.

梁 海山・若林芳樹 2009. 中国内モンゴルにおける環境政策と土地利用変化. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 225, 3 月, 八王子.

永見洋太・若林芳樹 2009. 東京におけるタクシー運転手の地理的知識の獲得と空間認知. 日本地理学会 2009 年度春季学術大会発表要旨集 **75**: 59, 3 月, 八王子.

有馬貴之 2008. 東京の動物園における来園者の空間利用とその地理的性格. 第 23 回経済地理学会関東支部修士論文発表会, 4 月, 東京.

- 有馬貴之・和田英子・小原規宏・菊地俊夫 2008. 若者のレクリエーション行動からみた借
楽園という観光資源. 日本地理学会 2008 年度秋季学術大会発表要旨集 **74**: 70, 10 月,
盛岡.
- 有馬貴之 2009. タイプ別来園者にみる空間利用の特徴—上野動物園の事例. 上野動物園飼
育展示・教育普及研究会, 3 月, 東京.
- Arima, T. 2008. Sustainable development of urban tourism space with the changes of land use
pattern and image in Odaiba, Tokyo. 31st International Geographical Congress, August, Tunis,
Tunisia.
- 小泉 諒 2008. 東京大都市圏における若年者の就業・生活の地域的傾向とその規定要因.
経済地理学会関東支部 4 月例会, 4 月, 東京.
- 和田英子 2008. 現代社会における「おたく」. 日本地理学会 2008 年度秋季学術大会発表
要旨集 **74**: 72, 10 月, 盛岡.
- 鬼頭美紀子 2009. 東急電鉄による郊外地域における住居住み替えの仕組み作り. 2008 年度
全国地理学専攻学生卒業論文発表大会, 3 月, 小金井.

6 特定学術研究

教育奨励寄付金による研究 1件

鈴木毅彦：特定研究寄附金「古環境復元に関わる火山灰編年学の基礎的研究」

受託研究費による研究 0件

産学共同研究費による研究 1件

高橋日出男：首都大学東京・東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センター防災研究所共同研究「降水量の空間代表性とその気象擾乱依存性に関する研究」

受託事業費による研究 0件

提案公募型研究費による研究 10件

高橋日出男：首都大学東京・東京都環境科学研究所共同研究「ヒートアイランドに伴う気象現象の解析」

松本 淳：名古屋大学地球水循環研究センター共同研究「東南アジアにおける降水日変化特性に関する研究」

山崎晴雄：平成 20 年度原子力安全基盤調査研究(その 4)「原子力施設に係る火山噴出物等の分析手法高度化研究」(提案公募型研究)

松山 洋：財団法人 とうきゅう環境浄化財団 2007 年度 多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成金「湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構の推定－東京都日野市の例」

松山 洋：千葉大学環境リモートセンシング研究センター 平成 20 年度共同利用研究「方向別分光反射特性を用いて植生量の空間分布を把握する手法の開発」

松山 洋：住友財団 平成 20 年度環境研究助成「カラマツ林における植生量の空間分布の推定－方向別分光反射特性を用いて」

泉 岳樹：国土地理協会 平成 20 年度学術研究助成「多方向放射観測データを用いて植生資源量の空間分布を把握する手法の開発」

中野智子：平成 20 年度首都大学東京都市環境学部 傾斜的研究費(特定・部局)若手「サップフローセンサーを用いた都市内緑地の潜熱輸送量の評価」

中野智子：鳥取大学乾燥地研究センター共同利用研究費「半乾燥草原生態系に関する二酸化炭素交換の環境制御実験」

大石雅之：平成 20 年度 社団法人東京地学協会 調査研究助成

科学研究費による研究 12件

- 杉浦芳夫：日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)「レッシュ集落立地論の誕生過程とそのナチ・ドイツ国土計画論への影響に関する研究」
- 高橋日出男：日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)「高密度な降水資料を用いた関東地方の強雨発現に与える東京都市域の影響評価」
- 松本 淳：日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(A)「データレスキューによる 20 世紀におけるアジアモンスーン気候の復元」
- 山崎晴雄：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「海成段丘を切る活断層の成因と古環境・古地震学的意義の解明」
- 若林芳樹：日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「地理情報技術を用いた人間の空間認知・空間行動の分析とその応用に関する研究」
- 大山修一：文部科学省科学研究費補助金 若手研究(A)「西アフリカにおける都市の生ゴミを利用した砂漠化防止対策とその安全性に関する研究」
- 鈴木毅彦：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「火山灰編年法を地下地質に適用した関東平野の形成史解明」
- 松山 洋：日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「積雪と植生が混在する地表面状態に対するリモートセンシングに関する基礎的研究」
- 泉 岳樹：日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (B) 「都市気候モデルによる都市型集中豪雨の再現と形成要因の解明」
- 有馬貴之：日本学術振興会科学研究費補助金 特別研究員奨励費 「エコ・ツーリズム空間におけるホストゲスト構造と資源の適正利用メカニズム」
- 齋藤 仁：日本学術振興会科学研究費補助金 特別研究員奨励費 「広域を対象とした地すべりの発生と降水量に関する地理情報学的研究」
- 四方かがり：日本学術振興会科学研究費補助金 特別研究員奨励費 「アフリカ熱帯雨林における人間活動と森林生態系との関わり」

7 学位論文

博士論文

- 平野淳平: 日本における小氷期後半以降の自然季節進行の長期変動 (英文)
- 梶 琢: 海底地すべり地形の形態的特徴を用いた流走メカニズムの推定—特に渡島大島、開聞岳沖とハワイ諸島周辺海域の海底地すべり地形と様々な地域での比較— (英文)
- 小林 淳: 箱根火山中央火口丘群の活動とその噴火メカニズムに関する研究—伊豆・小笠原弧北端部のプレート衝突域における構造運動に関連した火山活動— (英文)

修士論文

- 赤塚幸恵: 南関東における夏季の強雨発現頻度について
- 大塚道子: 区内観測降水量データを用いた日本中部における降水長期変動の研究
- 大矢 剛: 港区白金地区にみる住工混在地区における新しいタイプの再開発
- 岡崎 亮: 千葉県におけるコミュニティバス政策の市町村間普及過程
- 上條孝徳: 越後平野東縁部, 五十嵐川・刈谷田川における河成段丘の発達史と隆起量の推定
- 上手真基: 男鹿半島二の目潟・三の目潟湖底堆積物の年縞構造と東北日本における過去 2000 年間の古気候復元
- 小林由理亜: 隠岐諸島西ノ島の放牧地におけるウシの行動と植生景観
- 紺野祥平: 埼玉県鳩山町における冬季の夜間冷却に関する小気候学的研究
- 清水昭吾: 都市内緑地におけるクールアイランドとその季節変化
- 末吉 恵: 地域資源を保全・活用したまちづくり活動の相互関連性—東京都谷中・根津・千駄木界限を事例として—
- 瀬戸芳一: 地表面粗度による観測風の補正手法を用いた関東平野における風系構造の把握
- 中山絵美子: 多雪地域における融雪池「タネ」の利用と役割—気候景観の視点から長野県飯山市の事例をとらえる
- 野田英一: 都市域における POLSAR 画像分類
- 宮本 順: さいたま市におけるヒートアイランド現象の時間変化に関する季節的特徴
- 八幡 啓: 地震による建物被害の詳細分布と地形・地質的要因—2007 年能登半島地震と新潟県中越沖地震—
- 山島亮二: ユーラシア大陸における歴史的な土地利用変化が大気場に及ぼした影響
- 吉川茂幸: 極東域における冬季低気圧経路と大気循環場との関係